

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	丸一運輸株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市港区千鳥一丁目4番15号
工場等の名称	丸一運輸株式会社 藤前営業所
工場等の所在地	名古屋市港区藤前三丁目609
業種	運輸業、郵便業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	海上コンテナ輸送
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年5月9日 ～ 令和6年8月7日		
公表方法	☒	掲示 閲覧	（場所） 本社 労務・安全課窓口
	☐	ホームページ	(HPアドレス)
	☐	冊子	(冊子名・ 入手方法)
	☐	その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-653-9315		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

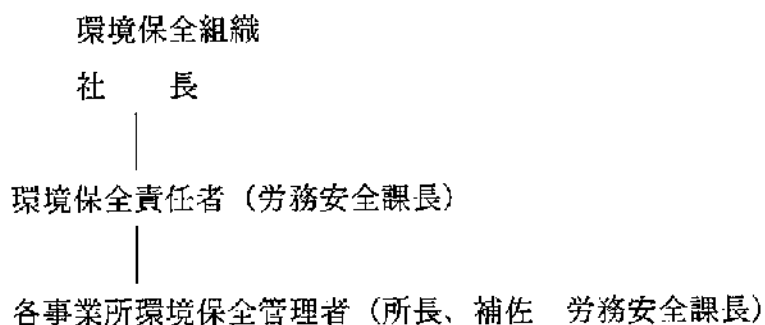
(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

事業活動によって発生する環境問題を最重要課題と位置付け当社が運輸業界の一員として未来の地球、社会の為にできることを積極的に行ない、地球環境を守るべく環境保全活動を推進する。

環境方針

- 1) 自動車N o x P m法対応車輛への代替計画を作成し着実に実施する。
- 2) アイドリングストップ運動を徹底して推進する。
- 3) 目標を設定したエコドライブの推進。
- 4) 環境に係る法規則や行政指導の内容を周知させる。
- 5) 環境へのマナー改善と教育による意識の向上を図る。
- 6) 利用可能な事務用品、作業機械等の再利用を徹底する。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①を 除く 炭素 換算 排出 量	①エネルギー起源二酸化炭素の排出量	3,485	t-CO ₂
	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		3,485	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績	目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度	令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量	4,177 t-CO ₂	3,927 t-CO ₂		3,806 t-CO ₂	3,485 t-CO ₂			
削減率（対 基準年度）		6.0 %		8.9 %	16.6 %			
温室効果ガス みなし総排出量				t-CO ₂	t-CO ₂			
削減率（対 基準年度）				%	%			%

項 目	基準年度の実績	目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度	令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量								
削減率（対 基準年度）		%		%	%			%
原単位あたりの みなし排出量								
削減率（対 基準年度）				%	%			%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

物量、業務の減少により走行距離も前年度より減少。使用燃料も比例して使用料が減少した 為、削減率が大きくなった。
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
自動車輸送機関に関する対策	・エコドライブの実践（エコドライブ10カ条） ・アイドリングストップ6項目の推進 ・燃費の向上 ・No xPm法等法律を遵守した車への代替	燃費前年度比2%向上	猛暑によりエアコンの使用頻度が増え、又使用期間が長くなった。前年度燃費より、-1%となり燃費の向上できず。
省エネルギーの実践 照明	休憩時並びに使用していない部屋、場所の消灯を行なう。		昼休みの休憩時は、消灯は継続実施中。
省エネルギーの実践 空調	冷房温度28度、暖房温度20度の実践継続。		猛暑により空調使用期間が長くなった。
廃棄物の排出抑制	- コピーの裏紙活用（メモ用紙） ・コピー、FAX用紙の両面使用。 ・新聞紙、ビン、缶は分別回収。		分別回収は継続実施中。個人ゴミは持って帰る等各個人で処分。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

グリーン経営認証活動の継続。エコに関する資料の掲示。車輛のメンテ、燃費向上策の継続実施。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

エコドライブ、アイドリングストップの実施。
